

### C-3 授業の詳細

#### 受け取ろう 椋鳩十さんの残したメッセージを

##### 【単元の目標】

情景や登場人物の思いを読み取り、作品を読み重ね、椋鳩十が作品にこめた思いを考えることができる。

##### 【単元構成】

第一次（つかむ） 『少年むくはとじゅう物語』を読む。作者について調べる。  
学習計画を立て、学習の見通しを持つ。

第二次（深める） 大造じいさんとガンを読む。  
<大造じいさんとガンで椋さんが伝えたかったことは？>

第三次（広げる） 他の作品を読み、作者が伝えたかったことを考える

#### ① 子ども自身が学びの「必要感」と明確な「めあて」を持つことができる単元構成。

子どもたちはこれまで、作者への興味を持ちながら作品を読んだ経験が少ない。本単元では作者と作品への興味を持って『大造じいさんとガン』を読めるようにしていきたいと考えた。そうすることで、作品への理解が深まると考えたからである。また、椋鳩十さんの他作品を読み広げるといった意欲を持つことができ、読書生活の広がりにつながると考えたからである。

そこで『少年むくはとじゅう物語』という伝記の読み聞かせから学習をスタートした。子どもたちと同じ小学5年生のやんちゃな少年＝作者の物語である。朝自習等の時間も使いながら、絵を拡大しながら読み聞かせをした。長い物語になるとそれだけで抵抗を感じる子がいる。どの子も椋さんの世界に入り込めるように、他の作品のアニメ絵本も用意した。

さらに図書資料やインターネットでの作者調べを単元のはじめに位置づけた。子どもたちは椋鳩十さんがたくさんの動物にかかわる物語を書いていることに驚き、それらをたくさん読んでみたいという思いや、「椋さんは何を伝えたかったのだろう」という単元を貫く課題を持つことができた。

導入に使った本 『少年むくはとじゅう物語』

「大造じいさんとガン」の物語の長さにも抵抗を持ってしまう子がいるので、朝自習等の時間を使って、絵を拡大しながら読み聞かせをした。

#### 作者について調べるワークシート

椋鳩十さんの作品	写真	椋鳩十を名調べる
	プロフィール	よう

② 基礎基本を学ぶ場や学び方を習得する場、思考を深める場を設定する。

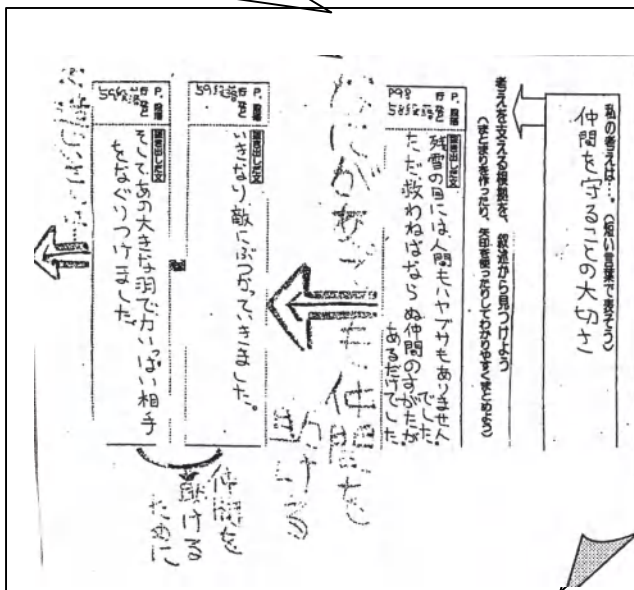
学習課題について話し合い、読みを深めていこうとすると、子どもたちはよく発言するのだが、考えが積み上がらなかったり、答えが導き出せないということがあった。

それは話し手が根拠となる叙述をもとに考えを話すことができていなかったり、逆に聞き手がその根拠となる叙述を聞き取ることができていなかったりするためだと考えた。

そこで、どの子も話し合いに参加できるようにするため、少人数から多人数へと話し合いの人数を変化させ、学び方を習得することができるようにした。また最後には一対一の対話を取り入れ、自分の考えが聞き手に伝わったという実感が持てるようにした。

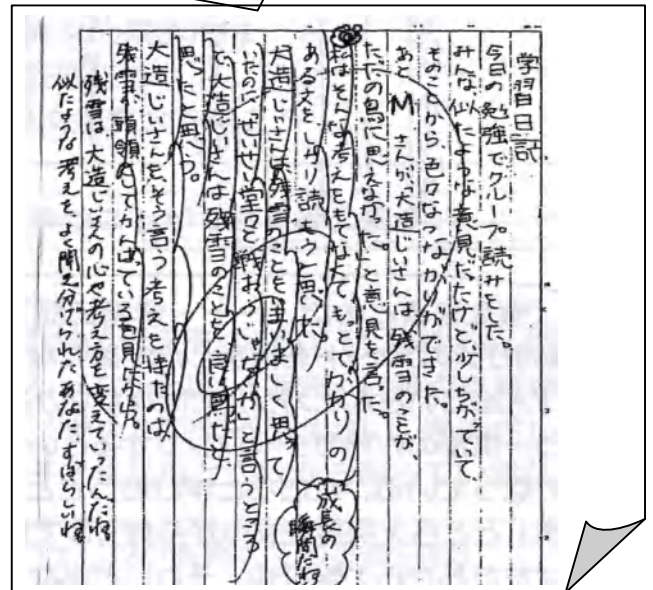
【一人での読み深め】

友だちから学んだことを生かし、根拠をもとに自分の考えを組み立てている。



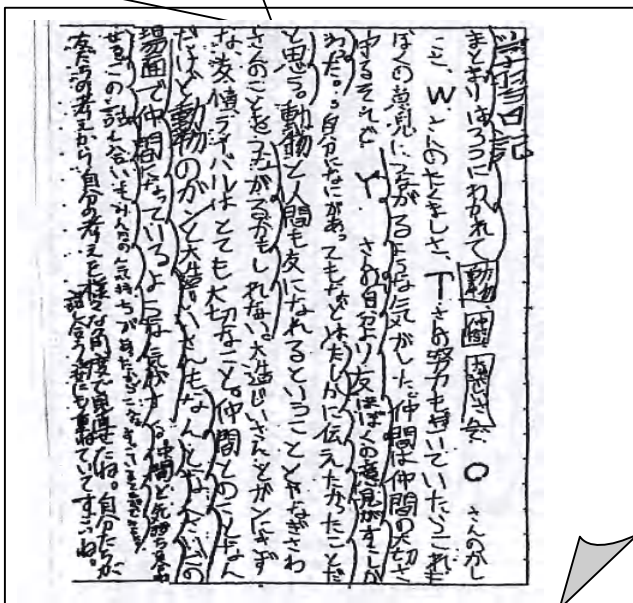
【グループでの話し合い】

お互いの根拠となる叙述をよく聞き、微妙な違いを聞き分けながら話をつなげたグループ。



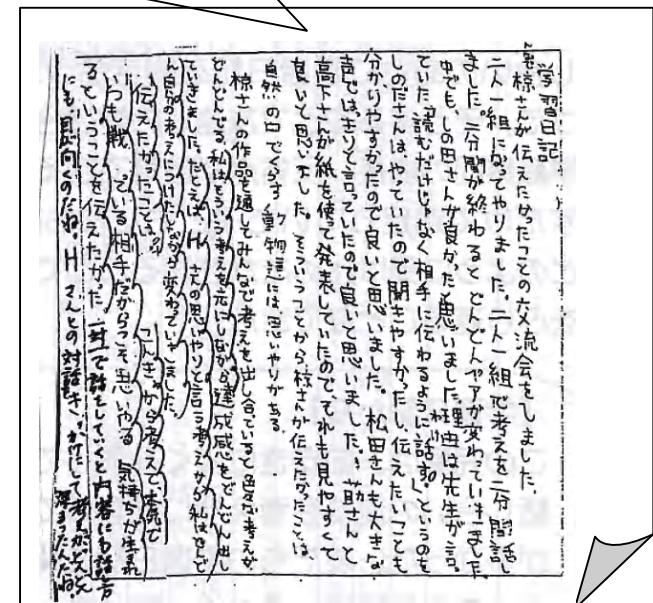
【クラス全体での話し合い】

大勢の友だちの根拠となる叙述を聞き分け、自分の考えと比べながら聞いている。



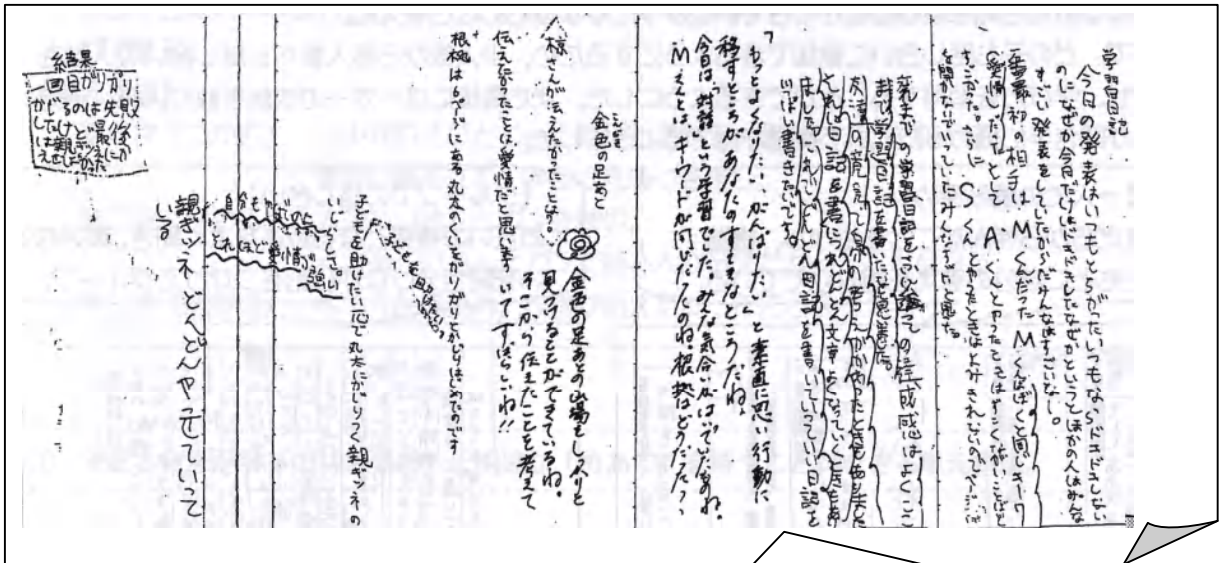
【一対一の対話】

一人一人と話をじっくりしていくことで、納得しながら自分の考えを変容させている。



③ 学びが生かされた実感、達成感のある単元のゴールを作る。

第三次で椋鳩十の他作品を重ね読みする構成にした。第二次までにつけた力を、それぞれが生かす場を設定することで、それぞれの児童についての力がより明確になると考えたからである。



【考えをまとめたノート・学習日記】

前単元④でノートを提示した、じっくりと自分のペースで学習する児童のノートである。

『大造じいさんとガン』ではなかなか達成できなかったことも、一度学習したことを生かしてもう一度別の作品でチャレンジするという場を設定することで、これだけ自分の考えを書けるようになってきている。友だちと学び合うことによって、『金色の足あと』から伝えたかったことを「愛情」ととらえ根拠を文中から見つけている。また、それを対話で交流し合ったあとのふり返りには友だちからの学びや、それにとまなう自分の成長、変容を記述している。

④ 自己評価（ノートのふり返り＝学習日記）の活用。

話し合いのあとに学習日記を聞き合う場を学習計画に位置づけた。そうすることで友達との学び合いが実感でき、自分や学級集団の成長、反省点が自覚できるようにと考えた。

話すだけで満足していた子どもたちも聞き手が自分の考えをどのように受け止めたかを知ることで自分の話し方、伝え方をふり返ることができた。

【学習日記から】

この児童は、前向きによく発表しているのだが話し合いの流れを考えずに発言してしまうことが多かった。友だちの学習日記を聞くことで、自分をふり返り、その後、話し方・伝え方を変容させていった。

